



「ご飯論法」の発案者が書き下ろす国会PVの1年間の記録

国会をみよう

国会パブリックビューイングの試み

上西充子著（法政大学教授）



2020年2月26日発売

定価：本体1600円+税

判型／四六判ソフトカバー

総ページ数／240ページ

装幀／坂川朱音（朱猫堂）装画／とり・みき

発行／集英社クリエイティブ 発売／集英社

ISBN 978-4-420-31087-1

街頭で国会審議をスクリーンに映して、通りかかる人に見てもらう「国会パブリックビューイング」。このユニークな活動は、どのようにして生まれたのか。

「ご飯論法」の発案者である著者が、自らの体験をもとに、小さくて新しいメディアについて書き下ろした一年間の活動記録。

- 第1章 国会で起きていること
- 第2章 活動の立ちあげと展開
- 第3章 映像がもたらしたもの
- 第4章 進行中の国会審議を取りあげる
- 第5章 野党議員による質疑の役割
- 第6章 路上という公共の政治空間
- 第7章 臨機応変な番外編
- 第8章 小さなメディアが開いた可能性



こんな伝えかたがあったのか！
市民メディアの知恵とスキルが痛快。

永井 愛さん（劇作家・演出家）

政府が逃げるなら。メディアが報じないなら。
私たちがストリートから民主主義を作り直す――。

荻上チキさん（ジャーナリスト）



イラストレーション／とり・みき

●著者紹介 上西充子（うえにし みつこ）

1965年奈良県生まれ。法政大学キャリアデザイン学部教授、同大学院キャリアデザイン学研究科教授。専門は労働問題。

2018年6月より、「国会パブリックビューイング」の代表として、国会の可視化に取り組んでいる。2018年の新語・流行語大賞トップテンに選ばれた「ご飯論法」の受賞者のひとり。2019年、日隅一雄・情報流通促進賞の奨励賞を受賞。

著書に『大学生のためのアルバイト・就活トラブルQ&A』（共著、旬報社）、『呪いの言葉の解きかた』（晶文社）など。

●内容紹介

街頭に国会審議映像を持ち出して大きなスクリーンに映し、その横でマイクを握り、ライブ解説を加えながら国会で起きていることを人々に知らせる。これが「国会パブリックビューイング」である。2018年6月に生まれた、政党や労働団体と組まない独自の活動だ。

「国会をみよう。そして考えよう」と代表の上西充子教授は呼びかける。本書はそうにして誕生した「国会パブリックビューイング」という、小さいが新しいメディアの活動記録である。

●本文「はじめに」より

国会パブリックビューイングの街頭上映は、夕方から始める。スクリーンを組み立ててプロジェクターから映像を映し出すので、あたりが暗くないと映像が見えにくいからだ。（中略）

活動を始めたきっかけは、マスメディアや既存の市民運動・労働運動の力だけでは、いま国会で起きている問題について、広く市民に共有されていないと感じたからだ。このままでは、さらに状況が悪化するという危機感があった。自分の思うように街頭行動をやってみると、反応が返ってくる面白さがあった。自分たちで街頭行動をおこなう経験を通して、自分たちが主権者であり、政治を変える主体なのだという自覚も芽生えてきた。

従来の市民運動・労働運動に便乗するかたちで新しい要素を付け加えるのではなく、自分たちで独自に団体を作って、自分たちが考えるスタイルで街頭行動を実施してきたからこそ、従来の街頭行動には足をとめなかった人が足をとめてくれていると感じる。また、自分たちでやってみるという行動を私たちが示しているからこそ、自分もなにかやってみようという動く人たちが、各地で生まれてきていると感じる。



〈本件に関するお問い合わせ先〉

編集担当 集英社クリエイティブ 書籍企画編集部／三好秀英 miyoshi@shueisha-cr.co.jp

電話 03-3239-3811 FAX 03-3239-3816

公式サイト <http://www.shueisha-cr.co.jp>

集英社広報部／伊勢村一也 電話 03-3230-6314 FAX 03-3238-9240

販売担当 書籍販売部第3課／登坂祐介 宣伝担当 書籍宣伝課／渡辺貴史